

【法人の概要】

代表者名	理事長 坂内 啓二		所管部(局)課	農政部畜産課	
所在地	山梨県北杜市小淵沢町大平10061		電話番号	0551-36-3200	
ホームページURL	http://www.yatuboke.jp		E-mailアドレス	yatuboku@io.ocn.ne.jp	
資本金(基本財産)	10,000	千円	設立年月日	昭和52年3月23日	
主な出資者	出資順位	出資者名等		出資額	出資比率
	1	山梨県		10,000 千円	100.0 %
	2			千円	0.0 %
	出資その他	団体(者)		千円	0.0 %
	その他			千円	0.0 %
合計			10,000 千円		
設立目的:	山梨県の子牛の生産、育成を振興し、もって畜産の安定発展に寄与すること。				
経緯概況等:	県営八ヶ岳牧場は、条例に基づき県の肉用牛生産基地として、肉用牛繁殖育成事業を行ってきた。 昭和52年:(財)山梨県子牛育成協会が設立され、協会は県から牧場管理業務の一部を委託された。 昭和60年:県営八ヶ岳牧場から、県立八ヶ岳牧場と改称し、協会は県から牧場の管理業務を全面委任された。 平成5年:県立まきば公園と天女山分場整備に伴い、協会は県からまきば公園の管理業務を委託された。 平成12年:堆肥化処理施設の稼働により、堆肥の販売を開始。 平成13年:周年預託業務を開始。 平成18年:県立八ヶ岳牧場、県立まきば公園の指定管理者となっている。 平成23年:公益財団法人に認定された。				

【主要事業の概要】

主な事業名	内容	事業費(単位:千円)		
		平成28年度	平成29年度	平成30年度
事業1 八ヶ岳牧場管理受託業務	県有肉用繁殖牛の飼養、生産子牛の育成及び売却。農家有家畜(牛・馬)の周年受託業務。草地等の維持管理業務。農家の巡回調査指導業務。肉用牛の改良増殖業務。家畜排泄物処理業務等	208,722	215,232	216,762
事業2 まきば公園管理受託業務	めん羊(サフォーク種)の増殖業務及びふれあい動物の飼養管理。公園施設、草地、植栽の維持管理 来園者の対応、各種イベントの開催	18,351	18,764	19,445

【組織】

各年度 4月1日現在	平成 29 年度					平成 30 年度					令和 元 年度							
	職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ の 他	職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ の 他	職 員	プロ パー 職員	県 職員 派遣	県 職員 兼務	県 O B	そ の 他
役員等	理事(常勤)	1			1		1			1			1				1	
	理事(非常勤)	8		2		6	8		2		6	8			2		6	
	監事(常勤)	0					0					0						
	監事(非常勤)	2				2	2				2	2					2	
	評議員	5			2	3	5			2	3	5					2	3
	計	16	0	0	2	3	16	0	0	2	3	16	0	0	2	3	16	3
職員	管理職	2	2				2	2				1	1					
	一般職員	19	19				19	19				19	19					
	臨時職員	2				2	2				2	3						3
	非常勤職員	0					0					0						
	計	23	21	0	0	2	23	21	0	0	2	23	20	0	0	0	0	3
令和元年度 プロパー職員 の年齢構成 (令和2年4月1日現在)	年齢	~20	21~30	31~40	41~50	51~60	61歳以上	合計							平均年齢	平均年収		
	男性		2	3	5	6	2	18	役員 常勤								(千円)	
	女性		1		1			2		職員 常勤								(千円)
	合計	0	3	3	6	6	2	20			45						5,420	

【経営の状況】

(単位:千円)

項 目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減
正味財産の状況	基本財産等運用益	47	47	47	0
	受取会費・受取寄付金	0	0	0	0
	受託事業収益	211,135	215,817	223,869	8,052
	自主事業収益	44,121	46,991	46,996	5
	受取補助金等	0	0	0	0
	その他の収益	1,282	1,415	1,060	△ 355
	経常収入 計	256,584	264,269	271,971	7,702
	事業費	240,209	244,400	246,149	1,749
	うち人件費	145,108	147,967	146,664	△ 1,303
	管理費	11,579	11,961	11,893	△ 68
	うち人件費	10,250	10,678	10,595	△ 83
	経常支出 計	251,788	256,361	258,042	1,682
	当期経常増減額	4,796	7,908	13,929	6,021
	経常外収入	0	0	0	0
	経常外支出	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	
当期一般正味財産増減額	4,796	7,908	13,929	6,021	
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	
正味財産期末残高	84,710	92,618	106,547	13,929	

(単位:千円)

項 目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減
財務状況	流動資産	36,313	55,543	70,435	14,892
	固定資産	112,834	108,669	119,055	10,386
	資産 計	149,147	164,212	189,489	25,278
	流動負債	20,033	23,849	52,731	28,882
	うち短期借入金	0	0	0	0
	固定負債	44,404	47,745	30,213	△ 17,532
	うち長期借入金	0	0	0	0
	負債 計	64,437	71,594	82,943	11,350
	正味財産	84,710	92,618	106,546	13,928
	うち基本財産への充当額	10,000	10,000	10,000	0
うち特定資産への充当額	25,566	30,238	40,634	10,396	

(単位:千円)

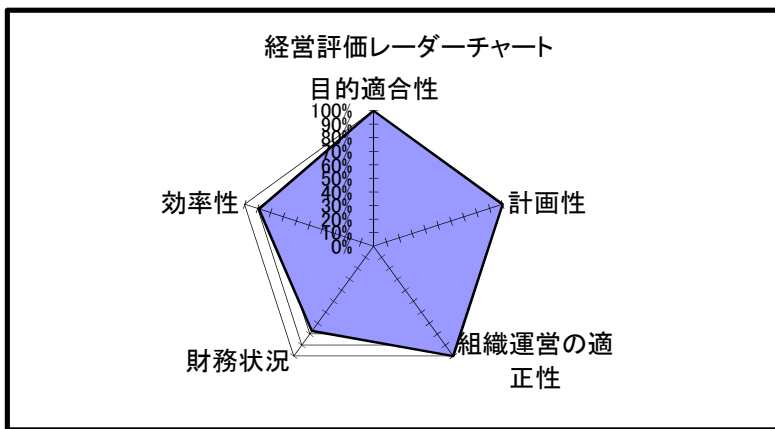
項 目		平成28年度	平成29年度	平成30年度	増減
県の財政的関与の状況	負担金	0	0	0	0
	人件費補助金	0	0	0	0
	人件費以外の補助金	0	0	0	0
	運営費補助金	0	0	0	0
	事業費補助金	0	0	0	0
	補助金 計	0	0	0	0
	人件費委託金	145,108	147,967	146,664	△ 1,303
	人件費以外の委託金	66,027	67,850	77,204	9,355
	委託金 計	211,135	215,817	223,869	8,052
	県支出金 計	211,135	215,817	223,869	8,052
県の財政的関与の割合(%)	82.3	81.7	82.3	0.6	
県貸付金残高	0	0	0	0	
県債務負担実際残高	0	0	0	0	

【県の財政的関与の状況(平成30年度)】

項目	内容・目的・金額
負担金	該当なし
補助金(運営費)	該当なし
補助金(事業費)	該当なし
委託金	県立八ヶ岳牧場管理委託費…農家家畜を受託放牧するとともに、県有牛を改良増殖・供給し、本県の畜産振興に資する。(H30委託料:203,058千円) 県立まきば公園管理委託費…自然の中で動物とのふれあいの場を提供し、県民の畜産への理解を深め、県民の保養休養に資する。(H30委託料:17,246千円) 死亡牛焼却処理業務委託費…西部家畜保健衛生所より県が行う牛海綿状脳症(BSE)検査後の死亡牛の受入及び焼却処理業務を受託(H30委託料:3,565千円)
県債務負担実際残高	該当なし

【自己評価・評点集計】:(経営評価算出表により、法人自らが評価した結果を記入)

評価の視点	評価ポイント	評価項目数	満点	評点	得点率
目的適合性	出資法人が当初の設立目的あるいは公益目的と適合した業務を行っているかを問う視点	3	10	10	100.0%
計画性	出資法人が長期的ビジョンを持って計画的に事業運営に取り組んでいるかを問う視点	3	10	10	100.0%
組織運営の適正性	組織・人事・財務等の内部管理体制が適切に整備、運用され、かつ情報公開による透明性の確保が適切であるかを問う視点	3	10	10	100.0%
財務状況	出資法人の経営の安全性や収益性を問う視点	7	44	34	77.3%
効率性	出資法人の組織の管理運営上における人的・物的な経営資源が有効活用されているかを問う視点	5	18	16	88.9%
合 計		21	92	80	87.0%



【警戒指標数】

目標達成度	
正味財産増減	
流動比率	
借入金依存率	
債務超過	
県の将来負担見込	
回収不能債権	
県の債務処理補助等	
公益認定基準抵触	

【出資法人の自己評価】:(各評価の視点毎に、法人自らによる分析・検証の結果及び対応策を記入)

目的適合性	農家畜の受託と肉用牛の改良および生産・売却を行い、畜産農家の経営安定に寄与するとともに、本県の畜産振興を図るため、指定管理者として基本協定に基づく業務を適正に行い、事業目的を達成している。
計画性	経営計画の見直しを行い中長期的な視点で経営を行っている。毎年度、事業計画を設定し、より効率的な管理運営と経営の安定を図っている。また、計画と実績の比較分析を行い、業務・経営の改善に努めている。
組織運営の適正性	必要に応じて各種規程の見直しを行っているほか、職員間のミーティングによる意思の疎通やモチベーションの向上を図るなど、内部監理体制を適切に行い、透明性の高い健全な運営に努めている。また、指定管理施設におけるリスク管理については、火災・地震等の災害発生を想定した避難・誘導の訓練を、隣接施設と共同で実施し、利用者の安全確保に努めている。
財務状況	一般正味財産増減額は6期連続プラスであるが、H30年度は、職員3名の退職に伴う退職金の支払に伴い、流動比率が低下したことにより評点が低くなった。ただし、当期末の流動比率も133.57%と経営の安全は保たれている。当期経常増減額の増加分は牧草収穫作業機の取得及び翌年度以降の公益事業費用に充当し、公益法人として収支相償を基本とした健全経営に努めている。
効率性	従前より管理運営の効率化を図ってきたところである。管理施設は家畜を飼養している施設であり、年間を通じて終日利用しており効率的に活用されている。当該年度の人件費総額は微減しており、計画的な人員管理により人件費総額を抑制していき経費削減や更なる利用者数の確保に努め、効率的運営を進めている。
総合的評価	実施事業は全て公益事業に認定され、設立目的は適切に達成しており事業の公益性は高い。優良素牛の売却等により甲州牛の生産基盤強化に寄与するとともに、受託家畜の受入増頭・繁殖管理の充実等により利用者のニーズに応えているが、冬期飼養管理施設の不足により、利用農家の要望に十分に答えられていない。自給飼料の安定確保により購入飼料費等の増加を抑制し経費削減に努めている。今後、施設や車両機械の老朽化により事業実施に支障がでることが懸念されるため、計画的にこれらを更新していく必要がある。



対応策	ハヶ岳牧場業務については、衛生対策の充実と受精卵移植等の繁殖に関するサービスを充実し、優良肉用牛の安定供給と受託頭数の安定確保に努めるとともに、国の補助事業を活用し公共牧場の機能を図り、県内酪農及び肉用牛生産農家からの負担に応えていく。また既存の老朽化した施設・車両機械等については、計画的な更新を県に要望していくとともに、作業車輛等取得積立資金等により、公益目的事業実施のために必要不可欠な車両等を更新していく。また、協会が更新した車両機械は、協会の固定資産となるので、県への寄付について県と協議していく。
-----	--

【法人担当部局の所見】:(法人所管部局による各評価の視点毎の分析、評価)

目的適合性	本県における大家畜の畜産振興を推進するため、県条例並びに当協会設置目的に従い、適切に受託事業等を実施しており、目的に適合している。 平成28年度に八ヶ岳牧場の受託延べ頭数の目標を上方修正した。平成30年度は受託頭数の増加に努めた結果、目標を達成したが、引き続き、技術の向上や夏季預託の増頭に努める必要がある。
計画性	経営計画・年次計画に基づいて、適切に管理運営が行われている。また、事業分析により業務改善に努めているが、今後も適切な管理運営を継続する必要がある。
組織運営の適正性	組織運営とリスク管理に必要な体制整備が行われ適切に運用されている。事業活動や財務情報もホームページ上で公開されている。引き続き、業務上のリスクの共有・対応方法の定期的な検討や、法人事業・イベント等の積極的な情報発信等、適正な組織運営に努める必要がある。
財務状況	家畜の牧場利用料の確保に努め、原材料費を中心に事業費の削減を図ったため、正味財産増減額が6期連続してプラスとなっており、健全な財務状況を維持していることは高く評価出来る。
効率性	八ヶ岳牧場の預託頭数は増加した一方、まきば公園の来園者数は減少した。このため、職員1名当たり利用人数は低下した。まきば公園の来園者数減少は、秋の行楽シーズンの台風による道路通行止め等が影響したと考えられるが、引き続き、未利用農家の新規開拓やまきば公園におけるイベントの充実を図ることで、利用者数の増加に努める必要がある。
総合的評価	設立目的に沿った事業を実施しており、適切な法人運営が行われていることは評価出来る。今後もより一層の合理的経営に努め健全な経営を維持すること。 平成30年度は、八ヶ岳牧場の受託延べ頭数は目標達成できたが、まきば公園の来園者数について目標達成が出来なかったことから、施設管理者としてさらなる利用者の増加等に努めること。

【総合評価】:(経営評価委員会、経営検討委員会による総合評価)

総合評価 ランク	A	A 得点率80%以上かつ警戒指標なし B 得点率70%以上80%未満または警戒指標が1 C 得点率60%以上70%未満または警戒指標が2 D 得点率60%未満または警戒指標が3以上
総合的所見	得点率 87.0 % 警戒指標数 0	<ul style="list-style-type: none"> ・八ヶ岳牧場・まきば公園の指定管理業務が法人の主要財源であるため、収入は安定しており、黒字決算を維持している。 ・再雇用職員1名が臨時職員となったことによる給料手当の減少により、人件費、管理費ともに減少したことから、人件費比率、管理費比率が低下し、効率性の評価が向上している。 ・流動比率が低下し財務状況の評価が下がっているが、これは年度末時点の退職金の未払分が流動負債に計上されているためであり、法人では退職給付引当金を負債計上するとともに、引当金に対応する退職給付引当資産を確保し退職金の支払に備えていること、当該未払分についても既に支払が完了していることから、法人の経営状況に大きな影響を与えるものではない。 ・引き続き、八ヶ岳牧場について、優良子牛の生産や預託された農家有家畜の効率的管理により、畜産農家の経営安定化に取り組むとともに、まきば公園について、さらなる利用者数の増加に努め、畜産に対する県民理解の醸成を図っていく必要がある。



【総合所見等に対する今後の対応方針】

<ul style="list-style-type: none"> ・八ヶ岳牧場、まきば公園の指定管理者として今後も基本協定に基づき適切な管理運営を行っていく。また、公益法人として、各種法令を遵守し、適正な組織の運営、安定的な経営に努めていく。 ・八ヶ岳牧場において、引き続き、農家の家畜受託事業の広報活動を積極的に行い、サービスの充実に努めながら預託頭数の増加を図る。また、併せて経費の削減にも努めていく。 ・優良子牛の生産は、畜産農家からの要望も多いことから、繁殖技術や飼養管理技術の更なる向上に努め、高度な技術力で払い下げ頭数の増加を図り、県内の畜産振興に寄与していく。 ・まきば公園については、来園者数が目標未達成であったことから、地域の関係団体との連携を図り、新たなイベントの検討等を進めながら利用者数の向上、満足度の維持向上などに引き続き取り組んでいく。
--